

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	日本語運用技術力の向上のための実際的教授法				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	竹部 歩美
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	坂巻 静佳
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	竹部 歩美

講演題目	大学生の日本語運用に対する理解とその実際的運用力の向上
------	-----------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

1. 本研究の目的
 本研究は、本学学生が実社会で活躍するにあたって必要となる「改まった場面における日本語」について、それがどのようなものであるのかを理解しつつその運用技術力を高めることを目的とし、効率的かつ効果的な指導方法を見出し、その教育に有効な教材の作成を目指すものである。
 本学学生を含む日本語話者の、改まった場面での話し言葉と書き言葉（具体的には、対話時の言葉遣いや、レポート・論文・電子メール等々）の適切かつ確かな運用の能力の低下には著しい。相当に懇切な教育を施さなければ、その能力を身につけることは、日本語母語話者にとってすら非常に困難なものとなっている。その一方で、殊に近時の大学生は、学生である間から、日本社会を構成する一員のたしなみとして、正確な言葉遣いが強く要求されている。
 日本語を的確に運用する技術力は訓練によって体得されるものであるが、日常生活においても、また、本学の現行カリキュラムにおいても、この技術を学ぶ機会があるとは言い難い。そこで、本研究組織は、①レポート・卒業論文を作成するために不可欠な日本語作文のマナー及びルールの指導、②電子メールの作成に必要なルールとマナーの指導、③敬語に関する基礎知識の指導、以上3つの学習の機会を設けた。また、この教育実践を通じて教材の有効性と適切な指導方法を検証することとした。

2. 研究の成果
 本研究組織は、短期集中指導で一定の効果の得られる、上記①～③の教材と教授法の開発に取り組み、これを用いて、国際関係学部生を対象に下記の(1)～(3)を実施した。(1)(2)は学生から提出された文書をリアルタイムで添削する、個別添削指導に近いスタイルを採った。(3)は基礎事項に関する集団指導をするスタイルを採った。参加者からは「非常に役に立つ」「役に立つ」との評価を得た。
 (1)「メールの書き方ワークショップ」をZOOMに拠るオンラインにて開催（令和3年6月14日）。
 …学生によって実際に書かれた電子メールの文章をリアルタイムで添削しながら、言葉遣いのみならず、件名や署名等々の記し方のマナーやレイアウト等についても指導した。
 (2)「日本語作文ワークショップ」をZOOMに拠るオンラインにて開催（令和3年7月3日・17日）。
 …日本語作文の方法について講義するとともに、事前に課した課題について参加学生により書かれた文章を添削しつつ、必要となる言語技術について解説指導を行った。
 (3)「敬語実践講座」をZOOMに拠るオンラインにて開催（令和3年12月3日）。
 …敬語の体系の概説を行ったのち、事前に配布した敬語教材に基づいて解説を施しながら、規範的な敬語とは何かを教授した。

3. 今後の展望
 学生が実践の場面でこれらを生かせるようになるには、継続的な訓練が必要であるため、本研究組織は、今後も日本語運用技術力を高める場を設けていく。そして、これに必要な教材及び教授法のさらなる向上を目指していく。